

まちを、人を想いたくなる情報誌

広報 湯前

Public
Relations

Since1962.

<https://www.yunomae.lg.jp/>

バチに魂を込めて。

◎特集
このまちに
植えた夢。

11

The Monthly
Nov_2020
Vol.473

CONTENTS



町の鳥「メジロ」



町の花「ツツジ」



町の木「ヒノキ」

注目のわだい

特集

04 このまちに植えた夢。

フォーカス

18 陶芸部会

全老連「2020 活動賞」

今月の記事

- 02 副町長あいさつ
富安智詞副町長
- 14 全力、団結、運動会
湯前小学校 / 湯前保育園 / 慈光こども園
- 20 ヘリテージ / 風刺漫画大賞作品
- 22 Monthly Topics
湯中柔道部、有終の美飾る / 人吉球磨中体連駅伝大会 / JR九州商事見舞金 / 弘法大師像もお引越し
- 24 暮らし・健幸
カロリー減で健康づくり / 資源ごみの出し方① / 糖尿病予防 / 読書のススメ / 戸籍の窓
- 26 Community
青年団だより / B&G 海洋クラブ / すくすくゆのまえっ子 / 編集後記
- 28 新協力隊着任 / #ゆのまえんじょい



11月の表紙

バチに魂を込めて

湯前保育園の運動会では年長児が和太鼓の演奏を披露。和気あいあいとした雰囲気が一気に変わるほど園児たちは真剣でした。気迫のこもった掛け声と力強いバチさばき。演奏のすべてに魂を込めて、一人一人が持てる力を出し切っていました。

■撮影日時 9月20日 ■撮影場所 湯前保育園

町民憲章

Town's People Charter

- 一、健康で心豊かなまちをつくりましょう
- 一、平和・勤勉・明朗なまちをつくりましょう
- 一、自然を人を郷土を愛するまちをつくりましょう
- 一、活力があり未来あるまちをつくりましょう

私たちは湯前町民であることに誇りを持ち、豊かで明るく住みよい町にするために町民憲章をここに定めます。

副町長あいさつ

On



Off



- 1 / 各課から業務内容の説明を受けて、意見を交わす
- 2 / 趣味は登山。すでに市房山を西米良ルートで登頂
- 3 / 熊本市から南阿蘇村を往復するなど一日100*。を漕いだことも。人吉球磨のサイクリングイベントにも2回参加した

県庁での経験を生かし、長谷町政の補佐役として責務を果たす

湯前町副町長 富安智詞

令和2年第6回湯前町議会定例会で議会の同意を得て、10月1日に富安智詞副町長(47)が就任しました。

【ごあいさつ】

私はことし9月末まで熊本県庁で勤務し、25年目を迎えたところで湯前町の副町長という重責を担うことになりました。大変身に余る光栄であり、責務の重さに身が引き締まる思いです。

湯前町では、長谷和人町長を先頭に「心豊かで、活力があり、未来を創造するまちづくり」というキャッチフレーズを掲げて各施策を展開していますが、今は喫緊の課題である令和2年7月豪雨災害から

の復旧や新型コロナウイルス感染症対策に軸を置いた取り組みを進めています。

長谷町長が目指すまちづくりや災害からの早期復旧などの実現に向けて、県庁での経験を生かしながら町長の補佐役として誠心誠意責務を果たしてまいります。

町民の皆様のご意見を真摯に受け止め、町政に反映していきたいと考えていますので、ご指導ご協力をいただきますようお願いいたします。

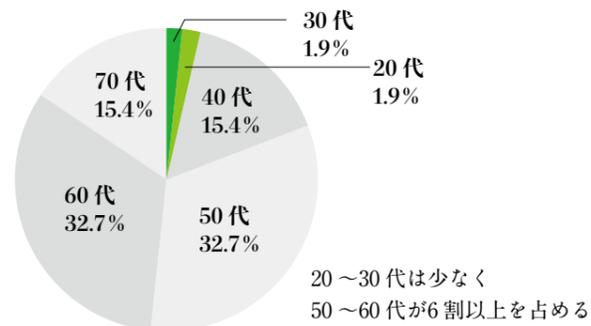
◎PROFILE とみやす ともし

大分県大分市出身。47歳。平成8年熊本県庁に入庁。健康福祉部健康局医療政策課課長補佐、企画振興部企画課課長補佐、総務部市町村・税務局市町村課課長補佐を経て、ことし10月1日付けで湯前町副町長に就任。

Deputy Mayor's Interview
Tomoji Tomiyasu



町の認定農業者の年齢別割合 ※R2.6月時点



20～30代は少なく
50～60代が6割以上を占める

※1 法律にもとづいた農業経営改善計画を作成し、市町村から認定を受けた農業者。地域農業の担い手として農地利用・資金・税制面などの支援を受けることができる。

※2 農林水産省『平成29年新規就農者調査』

◎特集

このまちに 植えた夢。

豊富な旬の野菜やとれたての新米。
実りの秋がやってきた。
私たちがおいしい食事をとれるのは
田畑で汗を流す人がいるからだ。
高齢化、後継者不足が叫ばれ続ける中、
夢を追いかける若者がいる。
なくせない。なくさない。
私たちのまちの農業。



コロナで見えた地産地消の価値

味や値段。私たちはさまざまなか
とを考えながら、お店で食料品を手
に取る。日本政策金融公庫農林水産
事業の消費者調査(昨年1月発表)
では健康を重視して食材を選ぶ「健康
志向」の人の割合が過去最高になった。
新型コロナウイルスによる外出控えは
自宅で料理する機会を増やし、自身や
家族の健康を食事面から考えるきつ
けにもなっている。
交通網が整備され、今や国内問わず
遠くのものも簡単に手に入る。食材の
選択肢も広がった。環境にかかる負担
を減らそうと、食料の輸送で排出され
る二酸化炭素を数値で表した「フード・
マイルージ」という指標がある。日本は
多くを輸入に頼っていて、指標の高さ
は世界一。そのうえ食料自給率はカロ
リーベースで40%を切っていて、世界
の食糧事情の影響を受けやすい。一部
の国が輸出を制限するなど新型コロナ
は世界の食糧貿易にも影響を与えた。
環境に優しく、より安全で新鮮な国
産食材の価値も上がり、地元で育てら
れた食材を地元で食べる「地産地消」も
再び光を浴びている。

鮮度は栄養価にも影響

もぎたてのトマトやキュウリは何も
つけずそのまま食べてもおいしい。新
鮮な野菜は日にちが経ったものに比べ
て栄養価も高い。野菜は収穫した後も
呼吸をされていて、糖分やビタミンCな
どの栄養分を分解し、水分も蒸発して
いく。旬の野菜は他の季節に採れた同
じ野菜に比べて味や栄養価が勝る。た
くさん採れるので値段も安い。

理想と現実

1970年代から現在まで全国で叫
ばれている農業の高齢化。原因は後継
者不足だ。ことし6月時点で町の認定
農業者^{※1}は52戸。うち50歳以上が42戸
で8割弱の33戸には後継者がいない。
面積にして142.98^{ヘクタール}にもなる。
本町は水稲の生産を中心に進めてき
たが、近年は野菜や果物といった施設
園芸が盛んだ。施設園芸は水稲に比べ
て面積あたりの収益は多いが、手がか
かるため労働時間も長い。高齢になる
と耕作できない農地も増える。荒れ果
てた農地を元に戻すには、多額のお金
や手間がかかるので、途切れることな
く農地として使い続ける必要がある。

3Kの意味は変えられる

全体で見れば農家の数は減ってい
るが、農業で起業した国民の数は平
成20年の860人から平成29年には
2710人と増加。^{※2}「やり方次第で
儲かる」と農業に意欲を燃やす人が増
えているのも事実だ。

「きつい」「汚い」「かっこ悪い」とい
うマイナスのイメージがあった3Kは現
在「感動できる」「かっこいい」「稼げる」
などのプラスの意味として捉えられ始
めた。四季を感じながら仕事ができる、
自分で仕事時間を決められるなどのメ
リットもある。

厳しさもあるが、夢もあるのが農業。
人数は多くないかもしれない。しかし、
若者が見ている農業への夢は確実に私
たちのまちで根を張っている。未来に
向かってその芽を伸ばすために。



←秋晴れの中ですくすくと育ったキュウリ。みずみずしく輝いている。年々、水やりや葉の摘み取りなどのコツをつかんでいき、廃棄や規格外品が減った分、出荷量も増えている



→奥まで続くキュウリの列。高さのあるキュウリは1列収穫するだけでも一苦労



農業の苦勞を知りつつも、最近では収穫だけでなく、野菜の成長も楽しみにしながら手を動かす野田さん

5年を過ぎて変わった

害虫予防をしたはずのキュウリが被害に遭い、売り物にならなくなったこともあった。

取材時の10月、午前6時からキュウリを収穫し、昼は稲刈り、田んぼのあぜの草刈りを終えて再びキュウリの収穫に戻る。ハウスの長さは92メートルで4棟。1棟に3列あり、1列すべて収穫しようとする1時間半以上かかる。キュウリやメロンの収穫は常に立ち座りが必要な作業。若者であっても音を上げることがなくなるほどの重労働だ。

農繁期に休みはない。就農当初、仲の良い友達が遊びに行くときに自分だけ行けず、歯がゆい思いもした。



就農6年目
野田翔平さん

絶対いいと言える自信はまだない。

町内で20代の若者がほとんどいない今、野田さんが農業に魅力を感じてほしい相手は小中学生など地元の子どもたち。「農業に対するイメージを変えたい。きついで、その分魅力があることが伝われば、将来の選択肢に農業も入るはず。稼げることも大事。私もキュウリ、メロンの廃棄を減らして出荷量を増やしながら、ミシマサイコも軌道に乗せたい」。幸せをつかむことが次の世代の希望になると信じて前を向く。

農業のイメージを変えたい

「同級生が地元で就農すると言っていた。苦勞も知っているから、絶対に農業がいいと言える自信はまだない。しかし、5年を過ぎたところから時間の使い方にも慣れてきて、少しずつ農業の良さも感じられるようになった」。農繁期以外は趣味の野球にも打ち込む。家族の理解もあるが、頼ってばかりはいられないと試合から戻ってすぐに仕事をすることも多い。「収穫の時期になると知り合いがハウスまで来て、ケースごと買ってくれ、『ありがとう』と言葉をかけてくれる。昨年と比べて収穫量が増えたり、できばえが良かったりするとうれしい。今は苗の成長具合を見るのも楽しさ」。続けてきた分だけ、喜びを感じることも増えてきた。

だけど続けてきたから喜びもあった——

軌道に乗るまでの苦悩

高校卒業後に町外に出た野田翔平さん(28)馬場は「漠然とではあるが、兄が継がないのであれば、いつか実家に戻って農業をしたいと思っていた」と6年前に本町で農業の道を選んだ。

父、一久さんは主に米やたばこ、繁殖牛を育てる農家。子どものころに作業を手伝った記憶はあるものの、一年目は右も左も分からなかったため、父に言われた通りに、ひたすら動いて経験を積んだ。「昔父が作っていたイメージがある」と2年目に一人で作り始めたのがメロン。現在はキュウリやスイートコーン、ミシマサイコも育てている。

一年目から大きな失敗をすることなく、ある程度の量を収穫することができた。そばに父がいたからだ。「質問するとすぐに答えが返ってくる。近くに相談できる人がいるのはありがたい。農家のやり方は人それぞれ。父のやり方と他の人から聞いた方法を比べながら効率を上げる工夫をしている」と自分に合った育て方を研究している。

メロンは交配する時期を見誤ると収穫時期がずれて出荷に影響してしまう。温度は天候を見極めて細かく管理しなければならない。農業は経験が物を言うことも多く、頭を悩ませた。



朝一番に収穫した、とれたてのズッキーニ。味もさることながら見た目も美しい。表面は傷が付きやすいので、軍手をつけて慎重に収穫している



楽しいスペシャリストへ。攻める農業で大人もチャレンジ。

常笑ファーム代表
多良木智晴さん

夢を追う大人の背中

株式会社常笑は昨年9月に「常笑ファーム」を設立。「楽しいスペシャリストになる」と代表に就任した多良木智晴さん(35)上村は野菜作りに加えて、ユーチューブやインスタグラムなどの情報発信にも力を入れている。

「周りにうまくなじめない人であっても、生きるためには仕事が必要。そんな人たちが自信をつけられるような働き口としてゆくゆくは提供したい」と設立のきっかけを語る多良木さん。空手クラブ陽心館ではコーチとしても活躍する。「空手を習う子どもには挑戦する大切さを教えている。大人が挑戦する姿を見て、将来地元で働きたいと思っしてほしいし、空手の実業団も立ち上げたい」と夢を掲げて毎日汗を流す。

他にはないもの

現在、主として育てる野菜の一つが「小松菜」だ。人吉球磨の主流はほうれん草。だが多良木さんには「地元にはない野菜を育てたい」という思いがあった。視察したのは福岡県の小松菜農家。成長まできれいにそろった小松菜、どこから見ても整とんされたハウス。「絶対に作りたい」と心を奪われた。

視察先や資材が似ている知人のほう

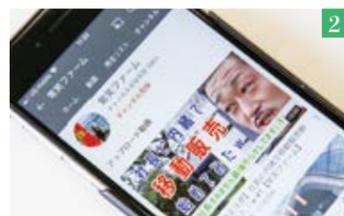
を一つ残らずに拾っている。

野菜がきれいに見えるように袋の詰め方も工夫。「一人がこれで良いと思っても他人には許容できないこともある。みんな話して確認している」と食べる人の立場で考えながら、スタッフ11人全員のコミュニケーションを大切にしている。

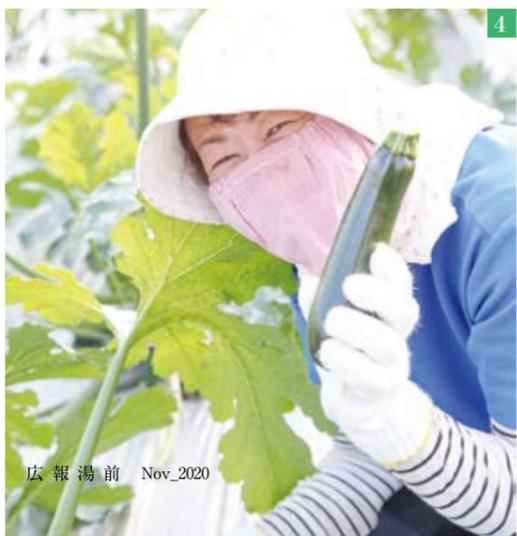
楽しさを伝えたい

始めたころ、多良木さん以外は全くの素人。「本気でやっただめなら仕方ない。素人だからこそ常にベストをつくさないと戦えない」。野菜と向き合う姿は真剣そのもの。7月豪雨でキュウリ、9月の台風でオクラが倒れたが、たった一日ですべて引き起こした。一生懸命やっていると周りの農家がアドバイスをくれるなどして協力してくれた。

「周りの支えがあるから今がある。全国に誇れるような野菜を作って地域へ恩返ししたい。ハウスの前の道は散歩をする人がよく通るので販売所を設けて自分たちの野菜を食べてもらいたいし、移動販売で高齢者にも野菜を届けたい。『湯前で農業をしたい』と思ってくれる人が増えるように、守る農業ではなく攻める農業をやっていききたい」。常笑ファームは誰にも負けない向上心を持って野菜作りに取り組んでいる。



1 / ズッキーニの定植。通路に流した水を汲んで苗にかける 2 / 楽しいスペシャリストへ。代表の多良木さんがユーチューバーに 3 / たつぷりと愛情を注がれた小松菜。すくすくと成長中 4 / コミュニケーションを大切に、スタッフも笑顔



自分でお金を作って生活したい

「自分でお金を作って生活することが理想だった。今後安全な食はさらに重要になり、農業の価値も上がっていくのではないかと。町の後継者問題の解消にもつながれば」。本町で3年間地域おこし協力隊として活動した椎葉賢也さん(26「野中田1」)。ことし9月から農家を目指して那須博幸さん(51「上村」)の元で作業員として働きながら修行を積んでいる。20歳のときには那須さんの元で1年間アルバイトをした。今回は本格的に農業がしたいと頼み込み、2年ほど働く予定だという。

一つ一つの作業が繊細

ナスやトマトの芽や葉っぱの摘み取り、稲刈りの手伝い、草刈りなど作業は一日8時間。「携わる前、農作業は大雑把なイメージがあったが、一つ一つの作業がとても繊細。違う場所の芽を摘んでしまうと収穫量に直接影響してしまう。ていねいな仕事をしている農家は野菜以外もきれいだ。野菜を育てる基本をここで学びたい」と椎葉さん。うねがまっすぐ立てられるよう、はじめにミリ単位で測るなど、徹底する那須さんの姿を間近で見ながら、野菜と真剣に向き合う思いを感じ取っている。



育てたいもの、やりたいことの根っこを育てる。

一人立ち目指す 椎葉賢也さんと 那須博幸さん

安全とおいしいを提供したい

「自分でやらないといけないが、頑張りが結果として表れるのが農業のやりがいだと思う。湯前の自然を感じながら仕事ができるのも魅力の一つ。将来は土地の恵みを生かして、安全でおいしい野菜を多くの人に食べてもらえるような農家になりたい。暑いハウスの中で繰り返し返しの作業。疲労も貯まるが、夢への一歩を踏み出すため、椎葉さんは負けじと心の内に火を灯す。

すべてを決断する厳しさ

「覚悟がないと続かない」。那須さんがそう話すのは農業の厳しさを身を



1/一人立ちを夢見て、黙々と作業する椎葉さん。やさしくていねいに作業する大切さを実感している 2/基本を徹底する那須さんのトマト畑は美しく、まさにお手本

培った経験が手助けになれば

那須さんは常笑ファームがキュウリ栽培を始めたばかりのころ、様子を気にかけて足を運び、豪雨災害時には自分のハウスにも水が流れてくる中、救いの手を差し伸べた。「今までは実家が農家だから自分も農業をするという流れが多かったが、これからはやりたい人が農業をする時代。自分が培ってきた20数年の経験が意欲のある人たちの手助けになれば」と胸中を語る。

教えられるのは農業の根っこ

「作業は優しく、ていねいに、美しく、かつ素早く。暑かろうときつかりとうと必ずやらなければならない。生産は安全性があること、環境負荷を下げることに、持続性があること。育てたい作物ややりたいことが違ってもすべてに共通する。私が教えられるのは農業の根っこの部分」。那須さんは積み重ねてきた基本を重視して椎葉さんと接する。

「大規模な農地を一つの法人が耕作すると農地や生産は守られるかもしれないが雇える人数には限りがある。地域に農家の数が増えれば農業だけでなくまちもにぎわうはず。一人でも多くの仲間がこの地域が増えてほしい」と椎葉さんを含めた未来の農家にエールを送りつつ、まちの農業を見つめる。



JAくま
営農部 販売直販課
荻田 康裕さん
(40 = 下城)

一年中地元の食材だけで
過ごせるほど種類が豊富

私たちにできる農家への一番のエネルギーは地元の食材を食べること。人吉球磨中の食材を取り扱う球磨地域農業協同組合（JAくま）の荻田康裕さんに地元野菜や果物の魅力を聞いた。

「農協が推進する夏の野菜をはじめ、面積が増えているキュウリやナス、秋冬にはイチゴやトマト。人吉球磨地域には一年中地元の野菜や果物で過ごせるほどの種類がある。これだけの種類がそろっている地域はめったにない。」
荻田さんは他の地域と比べながら、人吉球磨の良さを語る。

まずはどんな食材が地元にあるのかを知ってほしいと続けて話す荻田さん。「地元の人にこそ地元の食材を食べてもらい、その良さを感じて発信してほしい。県内一になるほど生産が伸びているズッキーニは、消費者から『料理の仕方が分かれば、とてもおいしかった』という声も聞いている。自治体が開催する農産物のイベントなどにも足を運んでほしい。地域の良さを知らないと、湯前は『地元の農産物を知れば知るほど、生活が彩られ、より豊かになっていく。』

私たちのまちは一年中旬を感じられるほど豊かな地域だ。

「味が良いことは食材選びには欠かせない条件の一つ。この地域は盆地で昼夜の寒暖差が激しいので、糖度を上げるにはうってつけ。果物だけではなく野菜も甘くなるし、例えば、ほうれん草はギュッとしまつて肉厚になる。地元の食材には手に取りたくなるだけの理由があることを強くアピールする。」

盆地の寒暖差は
糖度を上げるにはうってつけ

味が良いことは食材選びには欠かせない条件の一つ。この地域は盆地で昼夜の寒暖差が激しいので、糖度を上げるにはうってつけ。果物だけではなく野菜も甘くなるし、例えば、ほうれん草はギュッとしまつて肉厚になる。地元の食材には手に取りたくなるだけの理由があることを強くアピールする。」

人吉球磨の代表的な野菜・果物の旬

春	メロン、ズッキーニ、にんにく
夏	ナス、キュウリ、梨、ブドウ、桃
秋	ズッキーニ、栗、米、柿
冬	トマト、イチゴ

他から見ると誇れるものばかり

健康になれる食材が豊富。
どれも羨ましがられるものばかり。



村井 紘美さん
(50 = 下城)

7月豪雨の避難所の炊き出しで地元の食材が使われているので、湯前の野菜も運んでいます。いざというときに食べられるものが近くにあることはありがたいですね。小さな町なので、どのように野菜が作られているかがよく分かります。見られているという刺激を受けた農家がおいしい野菜を作り、私たちが食べるという良い関係が築ける地域なのではないでしょうか。地元にいると気づきにくいものですが町内で作られている雑穀や大豆などは国産も少なく、都会では飛ぶように売られています。鮮度の違いだけでなく、農薬を使わない努力もあり、地元には健康になれる食材がたくさんあります。

生産者が直接
運ぶ新鮮食材。
食べてほしい
から値段も安い。



椎葉美雨さん、柴田浩二さん、椎葉祐美さん

「湯〜どびあ」
物産販売所

穀物、野菜、果物など20軒ほどの農家が直接旬の野菜を運ぶので、並んでいる野菜はどれも新鮮。地元の人に食べてほしい一心で価格も安く抑えてくれています。湯前を代表するものからめずらしいものまで種類も豊富。例えば、プチッと歯ごたえと塩味があり生で食べるサラダにおすすめの「アイスプラント」やブロッコリーとカリフラワーを掛け合わせたような、見た目がおもしろい「ロマネスコ」などの野菜が並ぶこともあります。手の込んだ料理を作りたい人もぜひ売場をのぞいてみてください。店内では野菜ごとにおすすめの食べ方も紹介しています。

おいしいに気づくほど心が動く。
心動けば、夢が育って地域は実る。

どんな味なのか、どんな香りなのか、一つの食材をとつても「おいしい」の種類は無数にある。気づかなかったことに気づいたとき、人の心は動き、感動が生まれる。

まちのおいしいをたくさん見つけていこう。私たちがより多くの感動と出会うことが根付いた夢を育てる養分となり、地域の未来が実っていくはずだ。

特集 このまちに植えた夢(完)





全力



4 / 全力の「頑張れー!」 2 / 笑顔で誘導 3 / キラキラ輝くダンス 4 / 息びったりの上級生 5、8 / 小気味良く鳴子を響かせるよさこいソーラン 6 / 競技を盛り上げる放送 7 / 最後は任せて 9、10 / 赤白気迫の演舞 11 / やったね1等賞



湯前小学校の運動会は9月27日に同校で開かれ、全校児童182人が赤白の2団に分かれて全力でプレーしました。新型コロナウイルスの影響で午前中のみの開催。松本空赤団長(同校6年「田上」と藤本芽衣白団長(同「上里」)が「運動会を開催できることに感謝し、苦しくても心を一つにして最後まで全力で頑張ります」と宣誓し競技へ。児童は学年ごとの徒競走や2学年ごとのリレーで元気にグラウンドを駆け抜け、ダンスや応援合戦ではびったりと息を合わせて仲間と団結していました。

団結





1 2 3 4 5 6 7 8 9

1 / ポーズを決めて笑顔もばっちり
 2 / 駆け抜ける姿は風のように 3 / 追いつけ追い越せ玉転がし 4 / 早
 いもん勝ち、綱取り 5 / 白熱の騎馬
 戦 6 / ブリッジ歩きからきれいに
 回転 7 / 演奏に合わせてゆ〜らゆ
 ら 8 / 金メダルやったぜ！

競い合う園児の元気な姿が見
 られました。
 メラ目線ですっかり。綱取り
 や騎馬戦では赤白に分かれて
 話題では飛行機、車などのお
 体操では感動を与え、親子組み
 護者に感動を与え、親子組み
 倒立などをきれいに決めて保
 護者に感動を与え、親子組み
 年長児は体操で側転や三点
 して種目を楽しみました。
 など、クラスごとに特徴を出
 年少児のかわいらしいダンス
 年長児のかっこいい体操や
 開かれ園児71人が参加。年中
 月17日に湯前小学校体育館で
 慈光こども園の運動会は10

慈光こども園運動会
 楽しく、
 かっこよく

年中児の玉入れで親子が対
 戦し、勝利した園児は両手を
 突き上げてガッツポーズ。年
 長児は幼年消防や和太鼓の演
 奏で気合の入った掛け声やバ
 チさばきを披露するなど満点
 の頑張りをを見せていました。

▲湯前保育園運動会
 頑張るも
 笑顔も満点

1 / 力強く太鼓を鳴らす 2 / 大きな
 声で通常点検 3 / 似顔絵入りの応援
 旗 4 / 元気はつらつダンス 5 / 気
 持ち良い青空でのかけっこ 6 / かご
 目がけて「それっ」 7 / 父母に勝利、
 笑顔のガッツポーズ 8 / ママの待つ
 ゴールへ 9 / 一緒にゴロゴロ





作るものは同じでも、
でき上りはみんな違う。
だからこそ、おもしろい——

自分の手で作り出す喜びがある。

全国老連「2020 活動賞」に選ばれた
湯前町老人クラブ陶芸部会

On hot humans.
FOCUS
ゆのまえのよかところみつけ

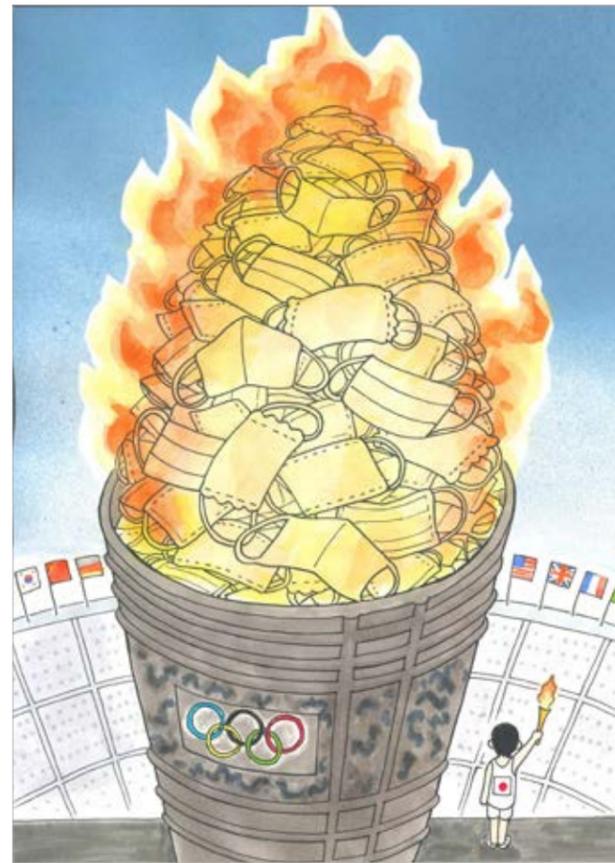
Vol.26



吉村会長から表彰状を受け取る陶芸部会。自分で作る喜びを感じながら活動する10人は生き生きと輝いている

べりを扶んで作る人、黙々と作業を続ける人、スタイルもそれぞれだ。
4年目の味岡真由美さん(65「下村」)は「はじめは用語さえ分からなかったが、今は作品を見て、使っている道具や薬品を想像できるようになってきた。自分が作ったお皿で料理を出すことが楽しみ。皆さんの技をいつも勉強させてもらっている」。橋田部会長は「コンクールのように作品ではなく、普段の作品づくりの姿勢が認められた。みんなで表彰を喜んでいて。たくさんの人に私たちの活動を知ってもらえる良い機会になった。自分が納得できるようなものを作ることは簡単ではないが、自分で作ったという喜びを感じながら、これからも活動していきたい」とますます創作意欲を燃やしている。

全国老人クラブ連合会が主催する「2020 活動賞」の受賞団体がこのほど発表され、本町老人クラブ連合会陶芸部会(橋田祐明部会長)の活動が選ばれた。昭和62年発足後、初の快挙だ。表彰は特に他の見本になるような先進的な取り組みをたたえるもの。9月25日、老人憩いの家で町老連の吉村光会長が橋田部会長に表彰状を伝達した。
老人クラブ内に陶芸部会が存在することは全国でも珍しい。現在、経験20年のベテランから1年目の新人まで10人が毎月第3金曜日の午前中に老人憩いの家で活動。作品の焼き上げまで自らの手で文化祭や熊本県シルバー作品展などに出品。町内の小学校や保育園の卒業記念品作りにも協力する。
10月16日の活動では千支の牛の陶芸に挑戦。陶祥窯(錦町)の福岡祥浩さんから説明を受けて制作にとりかかる。粘土をこねて頭と体を作り、目や鼻などの細かいパーツを切り張りする。「実際のしっぽはもっと細い」などと実物を想像しながら、筆の後ろの尖りを利用して目になる穴を開けたり、舌や角にはアクセントに赤く色をつけた粘土を使ったりして、次第に個性が表れてくる。「作るものは一緒だけれど、でき上りはみんな違う。そこが陶芸のおもしろさ」と講師がぼつり。時々おしゃ



↑一般部門大賞作品「願わくばその日……」
シンプルかつ洗練されたデザインで力強く訴える



↑湯前町長賞「あつ〜い」
よく周囲を観察して、ことしの夏をうまく表現した名作

→ジュニア部門大賞「水の中」
(作者談)「水害で被災している人吉球磨が早く自然豊かな元の姿に戻ってほしいとの思いで描きました(講評)「動きのある水や民芸品など、色鮮やかに、上手に書かれています」



第29回那須良輔風刺漫画大賞の審査会が10月2日に神奈川県鎌倉市の人子供会館で開かれ、一般部門の那須良輔大賞(賞金50万円)に福岡県在住の松本泰光さん(59)の「願わくばその日……」が選ばれました。ジュニア部門の那須良輔大賞(中学生の部)は久保杏璃さん(山江村立山江中1年)の「水の中」、湯前町長賞は福屋陽人さん(湯前小1年)の「願わくばその日」が選ばれました。

那須良輔風刺漫画大賞 応募多数692点 一般部門大賞に 「願わくばその日」

「あつ〜い」でした。風刺漫画家、故那須良輔さんの出身地である本町が平成4年から開催するもの。那須さんにゆかりのある、漫画家の前川しんすけさん、二階堂正宏さん、種村国夫さんの三人が審査員を務めました。今回は一般部門に369点、ジュニア部門に323点、計692点の応募があり、昨年からの244点増えました。ことしは「コロナウイルス」や「東京オリンピック」「災害」などをテーマにした作品が目立ちました。一般部門大賞を受賞した松本さんの作品はオリンピックの聖火でマスクを燃やして、コロナに打ち勝つことを望んだ作品。審査員は「半義務となっていたマスクも必要なしとなり、聖火とともにお焚き上げ。全国民がそうやってほしいと感じるに違いない。力強く訴える作品」と評価。福屋さんの作品はマスクの日焼けを表現したもので「一般部門の大賞をあげたいくらいの傑作。大笑いした後にすがすがしさが沸いてくる」と高評価を受けました。10月16日には農村環境改善センターで記者発表を開き、審査員を務めた種村国夫さんもゲストとして出席。全作品の展示は来年2月以降にまんが美術館で開く予定です。

THE YUNOMAE HERITAGE

ゆのまへの文化遺産を訪ねて

安牧神社



1/安牧神社の外観 2/建物の中に飾られた牛の写真 3/境内には牛像も

安牧神社は市房ダムの下流左岸、今は奥球磨ループ橋の際にあり、湯前町史によると安牧神社は五木村の土屋平兵衛が牧場に絶好の地として創建したとあり、牛馬の神様として知られています。『球磨絵図』には神社は「牧神」、浜川区塩利は「枝折」と書かれています。拝殿にはたくさん絵馬の代わりに牛馬の写真が奉納されています。境内には「ふるさと熊本の樹木」に登録されているホシコガの巨木があります。昭和37年神社が再建され、完成時に前宮司の土屋辰馬氏は「かぎりなき神のみめぐみ仰ぎてはまことの心永遠にのこさむ」と詠みました。神社のとなりには水上村立水上中学校があり、町史には「町議会が昭和34年1月に字塩利5131番地の1に水上村が水上中学校校舎を建築することに同意す」と書かれています。現在の水上中の敷地は市房ダム工事の土捨場だったようです。水上中学校は湯前町にあることとなります。



文化財保護委員 溝下 昌夫

湯中女子、健闘も悔しい3位

県大会まであと1分 球磨人吉中体連駅伝大会

球磨人吉中体連駅伝大会は10月13日にあさぎり町立あさぎり中学校をスタート、フィニッシュとする男子6区間20*、女子5区間12*のコースで開催。湯前中学校女子は3位と健闘しましたが、5年ぶりの県大会に届かず悔し涙を流しました。1区(3*)はエース深水帆乃華(3年=瀬戸口)が2位でたすきをつなぐと、2区(2*)で植木陽菜乃(1年=馬場)が区間2位の走りで見せましたが、人吉第一中が後半猛烈な追い上げで逆転。総合タイム47分10秒で、県大会出場枠である2位との差は1分でした。男子は1時間18分7秒の9位でした。

◆競技結果 ※(通過順位)[区間順位]

(女子) ③湯前中 47分10秒

1区 深水帆乃華(2)[2] 2区 植木陽菜乃(1)[2]

3区 深水夢華(2)[3] 4区 中田幸恵(3)[4]

5区 中田有咲(3)[4]

Topic 04

弘法大師もお引越し 御大師堂修復保存工事の準備



慎重に運び出された弘法大師像

御大師堂の修復保存工事ともない、安置されている木造弘法大師像などの仏像を9月30日にまんが美術館へ運び出しました。拝観を希望する場合は教育員会まで。お堂は江戸時代初期に建てられて以降、大きな改修をしていないことや熊本地震の影響で歪みや劣化が各部に生じているため、元の部材を使って全体を組み直します。期間は約2年です。



号砲とともにグラウンドを駆ける1区深水選手

(男子) ⑨湯前中 1時間18分07秒

1区 浜崎魁世(9)[9] 2区 永田悠大(9)[9]

3区 椎葉天剛(9)[8] 4区 黒木海音(9)[9]

5区 笹田光輝(9)[9] 6区 藤山憲史郎(9)[8]

Topic 03

森づくりのご縁で JR九州商事が見舞金贈呈



町長に見舞金を手渡す関社長

森づくりで本町とつながるJR九州商事(関信介社長=福岡県)3人が10月9日に本町を訪れ、豪雨災害の見舞金20万円を長谷和人町長へ手渡しました。

昨年11月に森づくり協定を結び、2年5カ月間、馬場区の町有林約19.63%で森づくりを進めています。関社長は「一日でも早い復興を願っている。森づくりでできた縁を大事にしたい」とあいさつしました。

Topic 02

湯中柔道部、有終の美

代替試合も中止、最初で最後の柔道大会



感謝の気持ちを持って最後の大会に挑み、結果を出した7人

人吉柔道協会が主催する人吉球磨中学校柔道大会が10月11日に人吉市立第二中学校武道場で開かれ、湯前中学校柔道部(3年生=5人、1年生=2人)が男子団体に優勝し、有終の美を飾りました。

新型コロナウイルスの影響で中体連夏季大会が中止。代替試合も7月豪雨の影響で中止となり段位を取得する昇段試験もなくなりました。3年生5人が行き場のない思いを抱えていたとき、同大会の開催が決定。1年生は初めての試合、3年生にとってはこし最初で最後の大会でした。

男子団体は5チームのリーグ戦で行われました。中礼雄一コーチの「今までたくさん練習してきた。君たちは強い、自信を持っていこう」という声かけに、選手の緊張が自信に変化。全員が一つになった湯前中は他チームを圧倒し、全勝で優勝しました。県・全国大会にはつながらないものの、苦楽をともにした仲間や恩師との強いきずなが勝利となって表れました。

◆競技結果

①湯前 3対1 人吉第一・第三 ②湯前 4対1 人吉第二

③湯前 4対0 あさぎり ④湯前 3対1 錦



7人のチームワークはばつぐん



積極的に攻め、全勝で優勝(久保田選手)

Topic 01

◆大会を終えた3年生とコーチの感想

【藤岡 慈将(ふじおかまなど)】上里3※主将 次々と試合がなくなっていたので試合ができる喜びが強かった。「自分たちならできる」と強気で挑むことができた。3年生5人がいて、1年生2人が入部してくれたから、優勝できた。部員や家族、指導者などみんなに感謝の気持ちでいっぱい。

【田爪 伏周(たづめかいしゅう)】上里3 中学生最後の試合がなくなるのは嫌だった。まだまだ試合がしたかった。大将としてのプレッシャーはあったが、最後の大会なので悔いの残らない試合にしようと思って挑んだ。練習を見てくれた指導者の皆さんや送迎してくれた家族にも感謝したい。

【那須 啓太(なすけいた)】上村

試合前に体調不良で練習を休んだ期間があった。復活して体力を戻すため、練習後に走ったが、走りやすいよう母が明かりをつけて応援してくれた。家族、仲間、指導者、周りの支えがあったから優勝できた。

【黒木 聡真(くろぎそうま)】上里3

優勝する気で挑んだが「できなかったらどうしよう」という不安もあった。試合をしていくうちに感覚を思い出し、練習の成果を出すことができた。先生や先輩に、自分の弱点を聞いて修正してきたことで自信を持って自分の柔道をすることができた。

【久保田 碧吏(くぼたかいら)】瀬戸口

1試合目で思い切り投げて一本をとれたことで吹っ切れた。自分で流れをつくることができた。中学1年生から柔道を始めた私に、3年間たくさんのことを教えてくれた指導者や仲間がいたから頑張ることができた。支えに感謝している。

【中礼 雄一(なれおゆういち)】

生徒と一緒に中体連を目標にしてきた。生徒たちの頑張りを知っているからこそ中止の連絡があったとき、すぐに伝えられず数日間悩んだ。次々と試合が中止になっていったが、いつか試合が開催されると信じて、内容を変えることなく生徒と練習を重ねてきた。今回の試合がなければ、自分で提案してでも試合を開催しようと考えていた。つらい練習も全員で支え合いながら乗り越え、よく頑張った。次は3年生が1年生を強くする番。技術だけでなく感謝の気持ちや礼儀礼節などの伝統を受け渡してほしい。

Books 読書のススメ

中央公民館図書室
☎0966(43)2050 2週間/一人5冊まで
平日 AM8:30～PM5:00 土日・祝 AM9:30～同

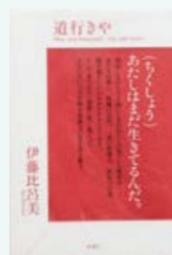
MISSING 失われている もの



村上 龍 (著)
新潮社

この女優に付いていってはいけない。主人公の小説家は、なぜ「混乱と不安しかない世界」に迷い込んだのか？

道行きや



伊藤 比呂美 (著)
新潮社

カリフォルニアで男と暮らし、子ども育てて介護に行き来、父母を見送り夫を看取り、娘と離れて日本に帰国。人生いろいろ、不可解不思議な日常を、漂泊しながら書き綴る。

ポケモンの しま



ザキャビン
カンパニー (著)
小学館

ある日、小舟に乗ってポケモンの島へやってきた男の子、ゆめたくん。ポケモンたちと仲良くなって、毎日島中を駆けめぐって遊びます。

Register 戸籍の窓

9月1日～30日

結婚おめでとう

山浦 展照 (下村)
中根 百合加 (氷川町)

ご冥福をお祈りします

越智 カネ (上里2)
横矢 榮次 (瀬戸口)
椎葉 ヤス (馬場)
岩野 セツ子 (瀬戸口)

香典返し

越智 勲 (上里2)
横矢 栄作 (岡山県)
岩野 邦治 (瀬戸口)

保健師 野々原 亜紀

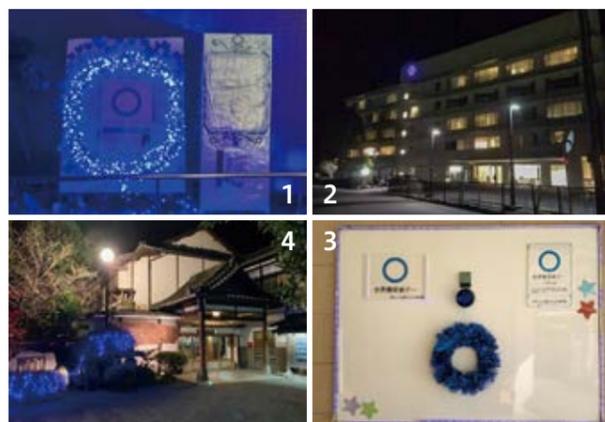
Health

保健師だより

ブルーの光は「糖尿病予防」

【11/14世界糖尿病デー】地域全体で取り組みます

人吉球磨糖尿病予防フォーラム実行委員会は世界糖尿病デーに合わせて11月中ブルーライトアップ活動に取り組み、管内12カ所の医療機関や保育園をシンボルカラーのブルーにライトアップしています。



1/ 球磨病院 2/ 公立多良木病院 3/ さざなみ保育園 4/ 人吉旅館

▷目的 糖尿病の予防を広めるため

▷歴史 平成19年に世界各地で広がり、人吉球磨では平成26年度からスタート

▷参加機関

人吉医療センター、公立多良木病院、球磨病院、堤病院、堤病院九日町診療所、緒方医院、岩井クリニック、外山胃腸病院、さざなみ保育園、中原歯科クリニック、人吉旅館、球磨地域振興局 ※昨年度

▷【HbA1c】(ヘモグロビンエーワンシー)が6.0以上の人はくわしい検査をおすすめします

過去1～2カ月の血糖値を反映します。健診当日の食事内容に左右されることがない、大切な指標です。2年前の町の特健診ではHbA1cの数値が7.0以上の人の割合は受診者の5.9%でした。合併症を予防するため、糖尿病治療の目標はHbA1c7.0未満※とされ、健診では6.0を超えるとくわしい検査をおすすめしています。

特定健診の結果で自分のHbA1cの数値を確認してください。質問や相談はお気軽に管理栄養士や保健師へお尋ねください。☎0966(43)4112

※何かの理由で治療強化が難しい場合を除く

カロリー減で健康づくり

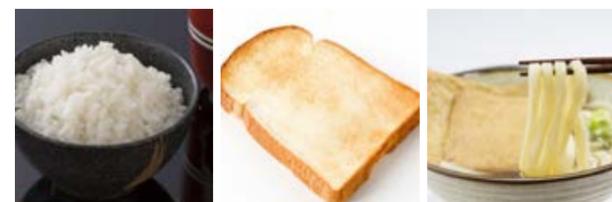
11月14日は世界糖尿病デー

エネルギー・たんぱく質・脂質、取り過ぎていませんか？生活スタイルや食事などに気をつけて健康づくりに取り組みましょう。

■主食の食べ過ぎに注意

米、パン、麺は体のエネルギー源になります。食べすぎるとエネルギーを摂りすぎてしまいます。

■目安



【ごはん】	【パン】	【麺】
茶碗一杯… 250粒(150g)	6枚切り1枚… 130粒	一玉… 250粒

※パンにつけるバターやジャムは少なめに、うどんの具には野菜やキノコを活用しましょう。

意外と知らない資源ごみのルール

リサイクルステーション出し方講座「資源ごみ①」

【ティッシュボックス】

・フィルムは外す



その他、紙マークのついたものは開いて出す。



【お酒や豆乳パックなど】

・内側がアルミでおおわれているものは「燃えるごみ」



その他の紙パックは洗って乾かし、開いて出す。

出し方で迷うときは・・・

「ごみ出しルールブック」を見るか保健福祉課にお尋ねください。スマートフォン用に「人吉球磨ごみ分別アプリ」もあります。☎0966(43)4112

Dietary habits

管理栄養士だより

■肉、魚の選び方

【牛、豚】 赤みの多いヒレ、モモ肉などを選ぶ。ロースやバラはできるだけ脂身を取り除く

【鶏】 鶏もも肉やむね肉は皮と黄色い脂を取り除く。ささみは高たんぱく質で脂質が少ないので和え物やサラダに◎。

【魚】 白身魚(タラ、カレイなど)を選ぶ。サバやサンマなどの青魚やトロは脂が多いので食べすぎに注意。

■油を使わず、余分な脂も落とす調理法



【焼く】
グリルや網焼きで香ばしさもアップ。



【ゆでる】
しゃぶしゃぶも◎。



【蒸す】
油を使わず余分な脂を落とす。

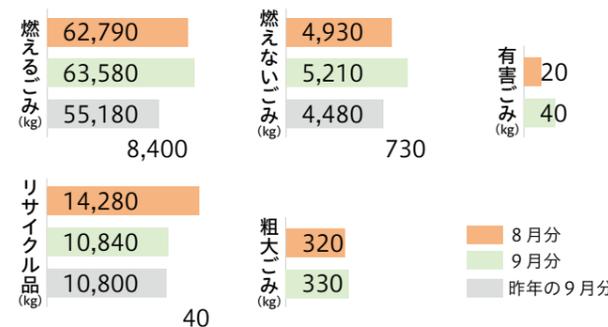
管理栄養士 田中 朋子

Ecolog

ごみ情報

11月の 不燃物収集	4日 (第1水曜)	18日 (第3水曜)
---------------	--------------	---------------

※リサイクル品を除く
9月の一人当たりごみの量 **21.25kg** (先月から0.61kg↓)



1 / 外で食べるお菓子は格別 2 / ママの食べものうらやましい〜 3、6 / 心地よい天気思わずぐっすり 4 / ママも散歩でリラックス 5 / おもちゃ、ちょーだい 7 / 寝起きでちょっぴり涙



▷ゆのっこサークル

秋風そよそよお散歩&ランチ

10月9日の活動では町内在住の親子6組が湯前駅周辺の散歩とユノカフェのランチを楽しみました。

雨の予報を覆す秋晴れと心地よい風。赤ちゃんたちはベビーカーで気持ちよさそうにすやすや。ランチでは、ママたちがおしゃべりしながらパスタセットに舌鼓。物欲しそうに料理を眺める赤ちゃんのかわいらしい姿もありました。

おいしいランチ、ごちそう様でした♪ ママ同士の話は育児の参考になります。



税所都嘉さん、心華ちゃん(浜川) 堤田里実さん、結風ちゃん(下染田)



Information

- 活動 毎月1〜2回(金曜日)
- 対象 未就園児の親子
- 時間 午前10時〜正午
- 申し込み ※要事前連絡 湯前保育園 ☎0966(43)2420

▼小さな家庭菜園を始めました。耕して肥料をまいて、うねを立てるともう足腰がプルプル。大きな畑を管理する農家の皆さんの苦労は想像を絶します…。取材したハウスはすべてきれいで感動。周りに広めたくなるような野菜を作ってくださいる皆さんに感謝。

▼一段と冷えてきたこのころ。思い出す半袖で過ごした小一の冬。自負していた寒さへの耐性。冷え性だと気づいたのは最近のことです。(宏)

▼生まれて初めてとうもろこしを茹でました。ネットで調理法を調べたら調理時間は約10分。実際にかかった時間は約20分。できあがりも予定とは全然違うもの。日ごろ料理していないとはいえず、茹でることすらできないなんて…。

▼寒くなり外に出るのが億劫になってきました。毎年冬はだらだらした生活。今年は寒さに負けず運動しようと思っています。今のところは。(右)

編集後記

青年団だより
Community

「青年の主張」～男子団員を紹介します～

2020.10
No.4

introduction



橋本康平(29) 「若人集まれ〜」 瀧森道太(30) 「球磨の若っかもんが、がまださんば!」 田代翔也(31) 「趣味は、スイーツづくりです」



沖松泰豪(25) 「筋トレ頑張ってます」 工藤祐二(24) 「趣味は写真を撮ることです」 工藤孝昭(23) 「元気が一番!」 森川未月(21) 「趣味は音楽を聴くことです」



大平修市(21) 「フットサルが好きです」 山下晃希(20) 「最近豆乳にハマってます」 松岡蓮(19) 「社会人1年目頑張ります」 尾方皇太(18) 「踊りが得意です」



Instagramで読み込んで青年団の活動をチェック

ことしは皆さんと交流できる機会が少ないので、団員を紹介します。今回は男子団員からです。顔を覚えてくださいね。毎日肌寒い日が続きます。体調に気をつけて過ごしましょう。



広報部長 山崎 莉奈

今後の予定

■12月【冬キャンプ】

湯前町内をハイキングしたあとに湯楽里コテージに泊まり、団員同士の交流を深めます。
※新型コロナウイルスの感染状況次第で中止する可能性あり。

▷B&G 海洋クラブ

全員があきらめずゴール

10月4日に海洋クラブ活動があり、会員の湯前小学校児童5人がどんぐり苗の植替えとSUP・カヌーを体験しました。

7月豪雨の影響で活動拠点の蓑谷ため池が使えなくなったため本年度の活動が減っています。植樹体験を終えた児童たちは、海洋センターのプールで指導者を交えてSUPリレーやカヌーのタイムトライアルに挑戦。ターンやまっすぐ進むことに苦戦しながらも、最後まであきらめずに全員がゴールできました。



コツをつかむとどんどん楽しくなるカヌー

地域おこし協力隊

新しい魅力を発見して 湯前を盛り上げたい

新地域おこし協力隊に片山強さん

観光振興を担当する地域おこし協力隊として10月1日に片山強さん(41=上里1)が着任しました。任期は令和5年9月末までの3年間です。

【あいさつ】

私は町内の出身です。大学を出た後はイベント関係の会社を数社またぎながら23年ほど福岡に住んでいました。地域おこし協力隊のことを知り、地元のためにできることはないかと考え「一度しかない人生、せっかくなら」と転職を決心しました。

地域の良さを生かした町のにぎわいづくりやふるさと納税の返礼品開発などの物産振興、観光案内人協会事務局、イベント企画・運営、SNSを使った情報発信に携わっていきます。私ができることを精いっぱいやって、町を盛り上げていきたいです。長い間湯前を離れていたの町のことを外から客観的に見つめ、新しい魅力を発見しつつ、福岡での経験を生かしていろいろなことにチャレンジしていきます。町を活性化しながら自分自身も成長していきたいです。どうぞよろしくお願いします。



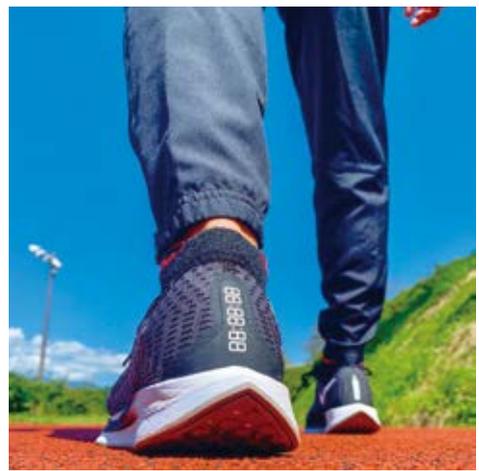
PROFILE :かたやま つよし

上里1区出身。人吉高校卒業後、福岡大学へ進学し、イベント関係の会社に勤務。ことし10月、地域おこし協力隊に着任。主に観光振興を担当する。任期は令和5年9月末までの3年間。

明日へ向かって一歩ずつ

#ゆのまえんじょい

スマホアプリは「マチイロ」



投稿 9月27日
場所 B&G 海洋センター
撮影者 _akm78_
ひとこと
大変なご時世ですが、できることをコツコツと自分のスタイルで乗り越えて行きましょう。

Instagramで「#ゆのまえんじょい」のハッシュタグを付けた投稿を町のホームページや広報紙で紹介します。



アプリ「マチイロ」を使うとスマートフォンで紙面が読みやすくなります。QRコードを読み取り簡単な登録を済ませてください。

※アプリのダウンロードや登録は無料、通信料は利用者負担
※閲覧中に広告が表示されますがその内容に本町は一切責任を負いません